異界

野葛間

1 緋目高や水甕ゆらりすきとほる
2 蚊のうなり打ち誰の血か滲む古寺
3 まなうらの異界の海ですれちがふ
4 釣り堀の魚魂碑人もなく光る
5 古城趾にからころと鳴る魔法瓶
6 俎板に乗り切らぬ鰭ぶちきる手
7 駄菓子屋の日除に氷菓喰む誰か
8 城門に無数の日傘吸はれゆく
9 捕虫網なくとも蝉の落ちまろぶ
10 夏祭天狗の面を見る赤子
11 掬はれて幸か不幸かくず金魚
12 鮎を追うせせらぎは澄む来世まで
13 水無月のアルゴリズムの果てのきみ
14 流灯や無数の霊と交歓す
15 姫蔦の絡まる地蔵首はなし
16 虫時雨忘れた恋に降り頻る
17 鹿の声撃ち抜かれたる猟区内
18 しんとした仏間で間引く花の首
19 墓洗ふ無声映画のやうな夕
20 真葛原有縁無縁の秘仏あり
21 下駄の音響く久遠の走馬灯
22 鬼やんま硝子を破れいつの日か
23 噛み殺す欠伸まどろむ林檎園
24 ひそとして葡萄酒発酵する夕べ
25 満ちてゆく秋の山肌灯す池
26 レース地のマスク冬日に本音吐く
27 靴擦れの色鮮烈なハイヒール
28 ああきみはフォーチュンクッキー叩き割る
29 冬畳裸足で笑ふ祖母がいた
30 霜柱ふたりで壊す密かごと
31 後毛に蜜柑の匂ひ白き首
32 繃帯が邪魔して裂けぬ手紙かな
33 猟銃と剥製映す幼い眼
34 冷め切った愛を掬ふ手牡丹鍋
35 骸骨の模型の塵をはらう指
36 とろとろと貪る春の眠りかな
37 しづもれる古城ひとひら蝶過ぎる
38 溢れ出す手のひらの花名も知らず
39 骨を喰む四つの瞳猫の恋
40 春遅し夢の波間に揺れる髪
41 ランドセル白詰草で満ちてゆく
42 通学路去勢されたる犬の傷
43 草原を裸足で翔ける夢を見て
44 櫛の歯の抜けてくやうに忘れゆく
45 廃車から溢れる野草五月闇
46 くちづけの刹那掛け軸古惚けて
47 時計台どこへいったか風見鶏
48 贈られた矢車菊の花盛り
49 あのひとがくれた手書きの時刻表
50 ねむりゆく幾万か蝶したがへて